高校はないが、高校生はいる！～小さな町の小さな挑戦～

南部町高校生サークル With you 翼

たくさんの大人の前で堂々と発表したのは、「南部町高校生サークル With you 翼」の高校生、田中千優さんと田部健太郎さん。10月5日倉吉未来中心で、自分たちが住んでいる地域をよりよい地域にしていこうと、社会教育委員や公民館の方などおよそ200名が集まり、「鳥取県社会教育振興大会兼鳥取県社会教育委員研修会」が開催されました。2人は、この会で、「南部町高校生サークルWith you 翼」の取組や思いを発表しました。

「南部町高校生サークルWith you 翼」は、同じ町の高校生が集まり3年前に結成されたサークルで、地域で様々なイベントの企画・運営や交流・体験活動を通じて、地域を盛り上げ、より住みやすい地域を作ろうと熱心に活動しています。

2人は、具体的な取組や活動を紹介しながら、「高校3年間で一人でも多くの人と出会い、一つでも多くの体験をし、一つでも多くの感動を味わって、より幸せな生き方を見つけていきたい」と日頃の思いを発表し、参加した多くの大人に感動を与えました。

これからの地域の担い手である高校生の活躍が、鳥取県全体へ広がることを期待しています。

◀堂々と自分たちの思いを発表する、田中千優さんと田部健太郎さん

2人の発表に聞き入る参加者▶

問合せ先　県教育委員会社会教育課　電話 0857(26)7520　FAX 0857(26)8175

鳥取県では、学校と地域がパートナーとなって子どもたちの学びや育ちを支える取組を推進しています。

学校では、「学校運営協議会」を設置し、学校と地域、保護者の代表者が集まって「どのような子どもたちを育てたいのか」という目標を共有します。

※「学校運営協議会」を設置している学校を「コミュニティ・スクール」といいます。

地域学校委員会（学校運営協議会）（倉吉市立小鴨小学校）

地域では「学校運営協議会」で共有した目標を学校支援ボランティアや関係団体等と更に共有し、学校と同じ方向を向いて子どもたちの学びや成長を支えています。

※学校と地域が目標を共有して行う「連携・協働」型の活動を、「地域学校協働活動」といいます。

県内の地域学校協働活動の取組

学習支援（伯耆町立八郷小学校）

稲刈り体験（鳥取市立美保南小学校）

問合せ先　県教育委員会小中学校課　電話 0857(26)7521　FAX 0857(26)8170　E-MAIL shouchuugakkou@pref.tottori.lg.jp

県立博物館と学校との連携事業

企画展「土方稲嶺（ひじかたとうれい）」で対話型鑑賞を行いました

この秋当館では、県内の小学校を対象に希望を募り、企画展へのバス招待というかたちで来館した子どもたちと、本物の作品を見ながら語り合う対話型鑑賞を行いました。

子どもたちに鑑賞を楽しんでもらうことはもちろんですが、将来の美術館開館に向け、美術館・博物館での作品鑑賞が子どもたちにとって貴重な体験となることを先生方、保護者の方々にも理解していただき、美術館と学校とのよりよい関係のあり方をともに考えていくことを目的としています。

❶ 教室で絵の中に入り込む（事前授業）
―デジタル鑑賞コンテンツ「Walk View」―

学校での事前授業で使用した「Walk View（ウォークビュー）」は、絵の中に入り込んだような感覚を疑似体験出来るデジタル鑑賞ツールです。スクリーンの前に置いたセンサーが鑑賞者の動きを読み取り、映し出された土方稲嶺《風雪三顧図（ふうせつさんこず）》の画像を人の動きに合わせて変化させるためあたかも絵の中に入って行くような感覚で鑑賞することが出来ました。

❷ 展示室で本物と出会う（博物館へのバス招待）

「あっ、これだ―！」来館した子どもたちは、展示室で《風雪三顧図》を見つけた時、懐かしい絵に出会ったような言葉を発します。事前授業で見た作品の本物と出会い、その魅力を自分の感性でキャッチした子どもたちの目は、さらなる好奇心で輝いていました。

絵の前で立ち止まれる子どもに

絵を見る楽しさを知った子どもたちは、誰かに促されることなく絵の前で立ち止まり、友達と、あるいは自分と、自分にとってその作品がどう見えるのかを話します。「子どもには難しい。分からない。」と思うのは、大人の思い込みかもしれません。展示室を訪れた2年生から6年生までの400名近い子どもたちはみなそれぞれに、自分にとっての「とうれいさんの絵」を味わっていたようです。

事前授業＆来館アンケートより

琴浦町立浦安小学校 6年 桑名 琴子さん

❶Walk Viewを使った事前授業

これまで絵の見方が分からなかったがWalk Viewを使うことによってその絵に隠された工夫だとか仕組みが分かり、より絵に入り込めて、絵をただ見るよりも面白い見方が出来た。とても楽しかった。

❷《風雪三顧図》の本物を見て

Walk Viewを見て分かることもあったが、やはり本物でしか分からない稲嶺さんの思いや努力が伝わった。映像では感じなかった迫力が、本物からは感じることが出来た。雪の感じなども、本物を近くで見ると、よりふわふわしていた。

❸展示されたいろいろな作品を見て

一つ一つの絵の中にそれぞれ物語があり、それを考えながら、感じながら見るのはとても面白かったです。動物たちもとても生き生きとしていました。それは稲嶺さんの努力だと感じました。どの作品もとても良く、見入ってしまいました。

問合せ先　鳥取県立博物館　〒680-0011 鳥取市東町2丁目124　電話 0857(26)8045　FAX 0857(26)8041　https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/

シリーズ　県立高校の取組

鳥取県立米子南高等学校

イルミネーションで米子を明るく元気に！

商業学科3年生が授業で取組んでいる課題研究「地域振興学」では、平成14年から米子駅前だんだん広場にイルミネーションを設置し、冬の米子の街を照らし続けてきました。平成27年からは場所を米子市公会堂前庭に移し、「マチナカクリスタル」のテーマのもと米子工業高校の生徒と一緒に光のオブジェを創り上げています。イルミネーション点灯中は、きらめく光の中で遊んでいる親子や写真を撮っている人々の姿があり、多くの市民の憩いの場になっています。今年も米子南高校の生徒が照らす光が、米子の街に明かりと温もりを届けることでしょう。

平成29年からは新たな取組として、7月に同じ米子市公会堂前庭で「七夕まつり」を開催しています。高校生がその願いをしたためた約1,000枚の短冊を会場に飾り、米子市内の高校生によるダンスで七夕イベントを盛り上げています。

これらの取組は『米子市を誰もが住みやすい、明るく元気な街にしたい。』という生徒の強い思いから始まりました。

七夕まつり（飾りつけ）

七夕まつり（オープニング）

みなさんぜひ見に来てください！

米子市公会堂イルミネーション マチナカクリスタル～Beautiful winter 光よ届け～　点灯期間／12月7日(金)～1月31日(木) 日没から午後10時頃まで

問合せ先　鳥取県立米子南高等学校　電話 0859(33)1641　FAX 0859(33)1642

シリーズ　鳥取県のエキスパート教員

倉吉市立東中学校　嶋田武弘

クラスが一体となって高め合う授業を目指して（協同的な学びの構築）

「学びの地図」で単元の見通しをもたせる

単元の初めに「学びの地図」を配布しています。「学びの地図」には1時間ごとの「めあて」「学習内容」「学習内容を理解するためのキーワード」「（予習をするために必要な）教科書等のページ」が記されています。生徒はこの「学びの地図」によって、学習の到達状況を確かめ、どんな力を付けるために今何の学習をしているのかを知ることができます。「先生、次の授業は何をしますか?」と聞かれるようでは、生徒の主体的な学びは生まれないと思います。

「めあて」と「学びの手順」を示し、学びの構えをつくる

「学びの地図」が単元の全体像を示すのに対して、「めあて」と「学びの手順」は、その1時間で身に付けるべき力やそのために必要な学びの手順を示し、生徒に学びの構えをつくります。「今、何をしている?」「次、何する?」という言葉が発せられる授業では生徒は授業者の後をついていくだけで、主体的な学びとはいえません。

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得の上に思考力・判断力・表現力の育成を行う

3年生の「エネルギー」の単元では、「力学的エネルギー保存の法則」の学習をした後に、次のような実験をします。

【問】5つの衝突球があります。衝突球を1個動かすと1個はじかれ、2個動かすと2個はじかれます。では、3個動かすとどうなるか、予想しなさい。

○自分の立てた予想と他の人の予想について意見交換しなさい。

→自分たちの考えをなるべく多くの人と伝え合うことによって、新たな発見や、自分の予想の修正点を見つけ出すように促しています。

○実験結果をもとに個人で考察した後、意見交換を行い、レポートにまとめなさい。

→自分のもともとの考察と他の人の考えを区別するために、他の人の意見を取り入れる場合はペンの色を変えて修正と追加を行うように指導しています。

このようにして、一人一人の思考の過程をつなげてよりよい考えを創り出していくような授業づくりを心がけています。

協同的な学びで意識しているのは、「分からない子が分かるふりをしなくてすむ」授業づくりです。学びの中で、一人一人の生徒の成長を促し、生徒とクラス全体が一体となって高め合う授業を目指しています。

問合せ先　県教育委員会 小中学校課　電話 0857(26)7935　FAX 0857(26)8170

シリーズ　市町村教育委員会の取組紹介

大山町

中山小

大山町では、「大山開山1300年」の今年、大山の自然や歴史、文化のすばらしさを、町民をはじめ、多くの方に認識していただく機会として「大山検定」を実施しました。

町内の小中学校では、すべての児童・生徒が検定に参加しました。小学校の検定では「初級」（10問）コースから始め、全問正解すると、次の「中級」（15問）さらに「上級」（10問）に進むという方法で実施しました。また、中学校の検定では30問中25問以上の正解で「大山マスター」として認定されるという方法で実施しました。児童・生徒は、町の図書館や学校の図書室に設けられた大山にまつわる特設コーナーの図書や、ふるさと教材「わたしたちの大山町」を活用しながら、事前学習をして検定に臨みました。認定を受けた児童・生徒には、各コースごとに認定バッジが学校長から贈られました。この認定バッジも、児童・生徒からデザインを公募したものです。

また、10月14日（日）に実施した「一般の部」では、県内の20代から70代までの幅広い年齢層が参加され、60の設問に挑まれました。11名が50問以上正解され、「大山マスター」として認定となり、町の総合文化祭において認定証が贈られました。

大山町では、今後も町民をはじめ、多くの方に「大山」についての認識を深め、「ふるさとへの愛郷心」をよりいっそう育むための取り組みを推進していきたいと考えています。

一般の部

日吉津村

エイサー体験

体験活動の重視

小学校5年生全員を対象とした、大山青年の家4泊5日の「セカンドスクール」や5、6年生8名の児童を対象にした、沖縄読谷村との人材育成交流事業。そして、「卒業までに100m以上泳げるようになる」を目標にした水泳専門員による指導などの、様々な体験活動は、生きる力を育てることに大きな成果をあげています。今年度3月からは、村在住の中学生6名をオーストラリアに1週間派遣し、ホームステイなどを行う予定です。

これらのことを通して、主体的で積極的に生きようとするたくましさと、自他ともに人を大切にしあい、豊かな社会性を兼ね備えたしなやかさが培われています。

保小連携

夏季休業を活用して小学校教員の保育体験や保小合同研修会を行ったり、保育所職員による小学校の授業参観や年長児の5年生との交流、入学予定児の体験入学などを行ったりしています。

5歳児健診を通して、早期から教育委員会が保護者と関わり、就学へ向けての準備や相談に応じています。子どもや保護者の不安をできるだけ少なくし、小学校入学に滑らかにつなげるように支援しています。

チビチリガマ慰霊

問合せ先　大山町教育委員会 社会教育課　電話 0859(54)5212

問合せ先　日吉津村教育委員会事務局　電話 0859(27)5956